第４回　東南置賜地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会　記録要旨

１　日　時　平成 30 年 1 月 10 日（水）14：00～16：00

２　会　場　置賜総合支庁　講堂

３　参加者　委　員　安部昌枝、井上清人、大森桂、金谷茂寿、清川千賀子
白石美保子、須賀一好、鈴木慈、清野一晴、山口周治
吉澤彰浩、和田廣（五十音順、敬称略）
※高橋まゆみ委員は欠席

事務局　津田教育次長
須貝高校改革推進室長、伊藤高校改革推進室室長補佐
小野高校改革主査

４　内　容

(1) 県教育委員会あいさつ

(2) 説明・報告
第 3 回検討委員会の論点整理

(3) 協議
①　中間報告書（案）について
②　中間報告書に係る「地域説明会」について
③　その他

５　発言要旨

(3) 協議

Ⅲ　東南置賜地区にとって望ましい高校再編整備

３　どのような人材育成、教育内容（活動）が望ましいか

（委員）

○　郷土愛は必要であるが、普通科高校から大学等で県外に進学すると戻ってこない者も多い。普通科高校の米沢興譲館高校と米沢東高校の進学率がどれくらいなのか教えてほしい。また、米沢工業高校の進学率や就職の県内外の割合を聞きたい。

（事務局）

○　平成 28 年度の卒業生の例として、米沢興譲館高校は大学等進学 85.6%、専修学校等進学 10.8%、就職はなし。米沢東高校は大学等進学 70.8%、専修学校等進学 24.8%、就職 0.7%である。米沢工業の全日制は大学等進学 13.4%、専修学校等進学 17.6%、就職 64.7%で、就職者 154 名中県内が 93 名、県外が 61 名である。

（委員）

○　中間報告書案は高校の将来の望ましい姿について記しているが、誰に対しての報告書なのか。中学生や地域の方々に向けてのものならば、難しい言葉をより分かりやすい表記にした方がよい。

（事務局）

○　あまりにも抽象的であっても困るが、ある程度、具体的な姿が盛り込まれることが望

ましいと考える。また、報告書を受け取る主体は県教育委員会教育長であるが、広く地域、県民の方々にも理解していただけるよう、分かりにくい表現は改めたい。

（委員）

○　P.11 の(3)求められる教育内容の３番目、郷土愛の涵養と若者の地元定着に向けた取組みに具体例として、これまでの検討委員会でも出された「長期インターンシップ等、地元企業に触れる機会をもつこと」を書き加えてはどうか。

４　どのような高校再編整備が望ましいか

（委員）

○　P.12 の(1)の２段落目、望ましい規模が１学年当たり４～８学級と幅があることで、（平成 36 年度の東南置賜地区 25 学級程度とすると）８学級とすると３校しか作れなくなる計画となる。また、４学級とすると、今の７校配置のままでよいとなる。学校規模については、この東南置賜地区にあった方向性を示していかなくてよいのか。

（事務局）

○　１学年当たり４～８学級とあるのは、県立高校再編整備基本計画で示した県全体での一般的数字である。実際、米沢工業高校や鶴岡中央高校の開校時が８学級であった。また、４学級を下回ると配置される教員数、教育課程、部活動などに影響が出ることが懸念されることから、４～８学級という幅になっている。

（委員）

○　P.16 の配置のところにも関連するが、P.13 の学校について、具体的な学校名を挙げた方が読み手に分かりやすく、個人個人による誤解が生まれないのではないか。

（委員）

○　上記意見に関して、県立高校再編整備基本計画は平成 36 年度までの計画であり、学級数だけだと学校数は維持してもよいのではという意見が出る。その後も子どもの数が減る可能性があるという内容を明記すべきである。

（委員）

○　P.13 の学校のタイプは抽象的に示し、P.16 の配置のところで、より具体的に示すということでよいのではないか。

（事務局）

○　P.12 の学校数のところの表現は、持ち帰って、委員長、副委員長とも相談させてていただきたい。また、配置案のところは、本検討委員会の性格上、具体的な学校名を挙げて示すことはせず、望ましい方向性について協議していただきたい。

５　どのような学校配置が望ましいか

（委員）

○　少子化に対応して学級減だけでは対応しきれず、統合はやむを得ないということはこの検討委員会の総意である。中期的、長期的という時間軸で示された２つの案について意見を出していただきたい。

（委員）

○　パターン１とパターン２とも中期的には３学級削減であるが、長期的な視点では子供がさらに減ることから大胆な再編が必要となってくると思われる。長期的な高校配置案で見ると、パターン１は似たような学校ができるのでわりと子どもが分散するイメージであり、パターン２はＰが産業高校で、普通科志望が多いことからＯの学校のレベルが上がると思われる。各高校で何を学ぶのかをしっかり示していく必要がある。特色がな

い学校をたくさん作っても子どもの学力は上がっていかないと思う。

（委員）

○　パターン１とパターン２の学校を示すアルファベットが分かりにくい。違う学校を指すのであれば、違うアルファベットを用いた方がよい。この委員会で検討するときは学校名があると分かりやすい。

（委員）

○　アルファベットの使い方は改善していく。現在ある学校との関係は透けて見えるが、検討委員会の趣旨のとおり、具体的な学校名を挙げて議論していくものではないことを了承いただきたい。

（委員）

○　中期的な学校配置は６校で、具体的には、米沢市内の４校が３校になるという案である。

（委員）

○　検討委員会の総意として統合は必要であるということを確認し、再編整備の方向性の案を提示するという視点で見ていただきたい。

（委員）

○　P. 16、17 の【中期的な高校配置案】、【長期的な高校配置案】のところは、中期は平成 36 年まで、長期はそれ以降ということを明記した方がよい。

（委員）

○　パターン１、２という示し方だとこの２つに縛られることになる。他のパターンもあり得ることを含ませるために、例１、２などの表記もあるのではないか。

○　パターン１、２について、図に加えて、説明を箇条書きにし、２、３行の文章でそれぞれの特色や課題を補足した方がよい。

（委員）

○　中期的な高校配置案による（６校への）再編でも、魅力ある学校をつくらないと納得が得られない。加えて、その後の再編で学校が最終的になくなってしまうのはどうか。説明会で異論が出るのではないか。

（委員）

○　具体的な再編となるとそれぞれの事情があって、進めるのは難しい。この検討委員会の本来の目的は、東南置賜地区の高校の今後の在り方について話し合うことである。具体的な東南置賜全体の像を示さなければならないとなると、学校の統合の組み合わせまで細かな議論となるので、今後の方向性を示すことでよいのではないか。

（委員）

○　Ａ校、Ｂ校等の説明文は、学校の特色を明記した方がよいと思う。具体的にどういう学校で、どういう方向で進むか示してほしい。

（委員）

○　中間報告書の整理については、本日の意見を踏まえ、語句・表現などの修正を加えて、まとめていく。最終的な文言の整理は私と副委員長に任せていただき、１月中旬の完成をめどに進めさせていただくことでよいか。（委員全員了承）

６　検討委員会の後に検討委員よりいただいた意見

Ⅲ４　どのような高校再編整備が望ましいか

（委員）

○　平成 36 年度までに、一高校として望ましい学級規模（４～8 学級）に再編していくことはもちろんのこと、平成 36 年度以降も生徒数の減少が確実に想定されるので、中期的視点にとどまらず長期的視点においても検討すべきである。また、コスト的にも再編が二度手間にならぬよう考慮すべきである。

○　生徒の学力維持のために適正な入学定員の（トータルで平均受験倍率 1.0 以上）設定をすべきである。同時に、仕方が無くではなく、前向きに進学先選択ができるよう、競争の中にも多様な選択肢がある環境を作っていただきたい。

Ⅲ５　どのような高校配置が望ましいか

（委員）

○　長期的視点において大胆に高校配置案を提示すべきだと考える。ただし、再編をする上で地域の思いに配慮した中期的な案もワンクッション置く上では提示をすべきである。

○　長期的視点及び中期的視点でのそれぞれの高校配置案で、メリット・デメリットを示した方がわかりやすい。

○　高校のタイプが金太郎飴のような似かよった内容では、生徒が選択する上で目的意識が曖昧になり、どこでも同じと受け取られると学力水準が下がる恐れがある。